

■岩手で広がる■ ワールド

パソコン世界

◇3◇

「彼女たちは、コンピュータが身近な道具になる世代ですから」

盛岡市山岸の盛岡白百合学園高(水原洋子校長)のAV室には二十四台の生徒用パソコンが並ぶ。

辺りが暗くなり始めた放課後だが、十数人の生徒たちが、一人あるいは数人が仲間となって、時折小さな笑い声をあげながらキーボードに向かっていた。

コンピュータ授業の復習をする生徒、周近に控えた修学旅行先の案内を画像と音声で再生するCD-ROMで楽しむ生徒。同校では昨年から選択科目に「コンピュータ1」を取り入れた。AV室は昼休みや放課後、生徒たちに開放される。

「慣れれば、パソコンなんて簡単」と、グラフィックソフトを使って画面上に絵を描いている生徒が満足そうに笑った。

同校は通産省と文部省が今年度から始めた「100校プロジェクト」事業の参加校。同事業はインターネットを活用して、「情報化社会が進む中、今までになかった授業を創造してほしい(通産省情報処理振興課)とスタートした。事業参加の公募には全国から約千五百校が名乗りを上げ、マルチメディア社会の旗

手インターネットへの関心の高さを示した。全国各地の参加校同士

の生徒たちが、テーマを決めて電子メールで意見交換したり、海外と文書のやり取りをしたりと、距離を超えた情報交換を試みている。

残念ながら、白百合学園高では機械的なアクセスも、担当教諭の手で同校紹介のホームページが開設された。インターネットに乗って、同校の名が海外に届いているわけだ。

インターネット

③

距離超えて学校間交流

音声を送ることが出来るインターネットならではの、画面上の「校歌」の文字に矢印を合わせ「カチッ」とマウスのボタンを押すと、同校合唱部が歌う校歌が流れる仕組みにもなっている。チャクチャク馬コやわんこ

そばなど地元名物の説明も載せ、岩手県をアピールしている。

もちろん、生徒自身が利用する企画も計画している。来年には「100校プロジェクト」に参加する東北学院高(仙台市)と討論を行う予定だ。カ



インターネットに接続する白百合学園高。生徒たちは放課後、自由にパソコンに触れる

トリックの女子校・白百合学園高とフロレスタント男子校の東北学院高が、それぞれの特徴について、意見を交換してみようという狙い。それ以外にも、文化・風俗の違いを全国の他校生徒と意見を交換してみたらどうかと夢を膨らませている。

プロジェクトを担当する柳田久弥教諭は「ネットワーク社会では、情報の一方通行でなく、自分から欲しい情報を取りにいたり、自分の意見を幅広く外に向かって送り出すことができる。また、それが出来るようになることが求められる」と言い、教育現場でのインターネット効果に期待する。

だからこそ、「最新の機器を使いこなせれば十分というわけではない。コンピュータネットワークも結局は人と人のコミュニケーションだ」ということを知ってほしい」と付け加える。